

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2690300021		
法人名	株式会社 メデカジャパン		
事業所名	京都壬生ケアセンター そよ風 (グループホームたんぼぼ)		
所在地	京都市中京区壬生天池町 24番地		
自己評価作成日	平成23年3月18日	評価結果市町村受理日	平成23年7月15日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://kohyo.kyoshakyo.or.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2690300021&SCD=320
----------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 市民生活総合サポートセンター
所在地	〒530-0041 大阪市北区天神橋2丁目4番17号 千代田第1ビル
訪問調査日	平成23年4月25日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

毎日ご利用者の笑顔が大切、そのためにはスタッフも笑顔でよい関係が作れないといけない。そのためにはまず、スタッフ間の良い関係作りに努めています。
また、ご家族様とのコミュニケーションも良く図り、率直な意見がいただき、一緒に考えてケアプランに反映できるように取り組んでいる

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

デイサービスや居宅介護支援事業者が併設された当該ホームは、「笑顔を大切に」を理念としたケアに取り組んでいます。個々の利用者がどのように暮らしたいかを考え、明るく穏やかな雰囲気の中で利用者やご家族、利用者一人ひとりの笑顔を大切に、職員は常に助け合い連携を持ちながら支援しています。担当職員と計画作成担当者を中心に作成された介護援助計画が全職員で実施できるように取り組んだり、排泄の自立に向けて職員で話し合い分析し支援することで、トイレでの排泄が出来失敗も少なくなった方もおり、1つ1つを課題にして取り組む事で成果も得られケアの統一を図っています。また、年数と共に徐々に歩行や移動に支援が必要となってきましたが、2~3人での個別外出に取り組み喫茶店やドライブに出かける等利用者が今出来る事ややりたい事に取り組んでいるホームです。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝朝礼時に「そよ風憲章」を唱和し、理念を共有するように努めている	法人の理念をもとに、笑顔を大切に地域で暮らせるようにとの思いを込めて作成した各ユニットごとの理念があります。事務所等に掲示し、法人理念を朝礼時に唱和しています。	各ユニットごとの理念について、職員の思いやケアに活かされているか等を振り返ったり共有できるように話し合う場を設けられてはいかがでしょうか。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会の活動に参加し、行事への参加を呼びかけている	自治会に加入し、回覧板が回って来て、行事案内や市民新聞が届けられ情報を得て参加しています。町内会の運動会では職員が競技に参加し、利用者は運動会の応援に行ったり、地蔵盆に参加しています。また、小学生と授業の一環として子ども達を受け入れ、昔の遊びや違い等についての質問がある等、世代間交流しています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	京都市認知症サポーター研修の協力を行っている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	隔月に運営推進会議を実施している	家族や自治連合会会長、地域包括支援センター職員等が参加する運営推進会議を2カ月に1回、開催しています。ホームの現状報告やボランティアの受け入れ、ホームの課題等を報告し、認知症サポーター研修の開催について等を話し合っています。又、参加がなかった家族には会議録の送付を予定しています。今後、町内会長等、地域の方が参加してもらえるように考えています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	集団指導を受けその内容を取り組み協力関係を築いていく	市の担当者とは、電話や直接出向いて行き、運営についてや相談等をしています。市の職員からも震災についてメールがあり、地域でのホームの協力体制についてやり取りをしています。又、市主催の事業所連絡会や京都府グループホーム協議会に参加しています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束等廃止宣言をして掲示 身体拘束虐待委員会を設置している	防犯の為、玄関やユニット入口は施錠していますが、ユニット間の行き来は自由に出来るようになっています。外出希望や出かけた様子を感じたら職員と一緒に出かけています。身体拘束については、法人の研修に参加したり2カ月に1回、事例を用いて検討し、伝達研修を行っています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束虐待委員会を設置 隔月に委員会を実施全職員への結果を共有するよう図る		

京都壬生ケアセンター そよ風（グループホームたんぼぼ）

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	全体研修での実施で学習機会を設けている また入居契約時に説明活用している		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分な説明と同意を基本とした取り組み		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ケアカンファレンス、ユニット会議で話し合っている	家族の来訪や運営推進会議等の参加が少なく、意見や要望を聞く機会があまりありません。利用者の健康状態に変化があった時等は、電話で状況を説明すると共に意見や要望を聞いています。	以前実施していたアンケートの再開や運営推進会議録の送付、グループホーム便りに利用者の状況やコメントを入れ、意見や要望を頂く機会を設けてはいかがでしょうか。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回の全体会議を設け問題点相談点を出し合って検討などを行っている	ユニット会議や全体会議を毎月開催し、意見や提案等を聞き、参加者全員で考える場を設けています。参加出来なかった職員には、事前に意見をもらい皆で決め、会議録を回覧し決まったことが実行できるように取り組んでいます。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	現在介護職員処遇改善交付金の交付を行っているながら取り組んでいるところである		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	実施している		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	GH協議会への参加などで他事業所とのコミュニケーションを図っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	要望をお聞きし、対応している		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族面会時などに意見や要望を伺うように取り組んでいる		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	こまめな情報収集に努めて活かすようにしている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	共に生活をするという気持ちで接し家事等も出来る範囲で協力していただくようにしている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	より良い生活のため、ご家族からの情報収集に努める又互いの情報を共有するように働きかけている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	散歩や外出レクの時、思い出の場所に出向いたり、生活の中で馴染みの場所や人の話について傾聴しながら支援に繋げている	利用者との会話から思いが聞かれれば、家族に協力を得て自宅に戻ったり昔に出かけた場所に行けるように支援しています。又、ホームからも近隣の商店街に買い物に出かける等、生活歴や利用者からの希望や要望も聞きながら出かけられるようにしています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個々の性格等も考えながら良い関係が保てるよう必要に応じて席替えなども行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	実施している		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご利用者様本位に努めている	利用者自身から直接、希望や意向を聞いています。思いを表すことが困難な利用者からは、表情や行動等から思いを汲み取り把握できるようにしています。又、家族からも多くの情報を得ています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アンケートや生活暦の作成、それを活用しながら、現状把握に努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	介護記録、個人の他の記録から現状を把握するようにしている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご家族や本人の要望を踏まえたケアプラン作成	法人のアセスメント表やセンター方式の一部を基にケアプランを立てています。ケアプランに沿ったケアが出来ているか毎日チェックして、3カ月に1回モニタリングやカンファレンスを開催し、職員にも意見を聞いて現状に即しているか確認しています。アセスメント表を半年毎に更新し、見直しに繋げ、家族やかかりつけ医にはその都度聞いています。又、担当職員は介護援助計画表を作成しケアが統一できるようにしています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアカンファレンスを通じて情報を共有し、プラン作成につなげる		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時その時のニーズに応えられるように取り組んでいる		

京都壬生ケアセンター そよ風（グループホームたんぼぼ）

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	実施している		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関とは常に連絡によって対応してもらっており、定期往診隔週1回、緊急対応、臨時受診も対応可能	協力医とは、24時間連携が取れ毎週ホームに往診に来てくれる事などを家族に説明し、納得が得られた上でかかりつけ医を協力医に変更しています。又、訪問歯科も週に1回来訪があり、必要があれば利用できるようにしています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	協力医療機関看護師やデイサービス看護師と相談できるようになっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	実施している		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	話し合いをする場がもっと必要	現在は徐々に重度にはなってきましたが、終末期を迎えられた方はいません。契約時には、医療が常時必要になれば退去と伝えています。今後、医療連携の体制作りを整え、家族等の希望があれば支援していきたいと考えています。	安心してホームで暮らせるように、体制作りを整え、職員の思いも取り入れたホームでの方針や指針を作られる事を期待します。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に(年2回)行っている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	日中帯、夜間帯に分けた消防非難訓練を実施	年に2回、昼夜を想定して、消防署にも可能な限り来てもらい協力を得ながら避難訓練をしています。ホーム開設時には地域の協力を得られるように協定書を結んでいます。又、近隣での火災があった事で町内会との話し合いや運営推進会議で議題にしたいと考えています。	協定書の内容が浸透しておらず、開設時から数年が過ぎた事もあり、再度地域との協力を得られるように、協定書について再度の話し合いを持ち確認されてはいかがでしょうか。又、消防署が来た時には地域の方にも声かけし参加を呼び掛けてはいかがでしょうか。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	十分とは言えないが、常に意識し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応を心がけている	全体会議や認知症研修で接遇にポイントを当てて学んでいます。馴染みの関係が出来てもドアを開けたままで介助をしない等節度を持った対応や意識を持つてのケアが出来るように心がけています。又、不適切な対応や言葉遣いが見られた時にはその都度、注意し合っています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご利用者様の意思を尊重し自己決定されるよう働きかけている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご利用者様本位の支援に努めている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	身だしなみに注意し、必要に応じた、更衣支援を実施、希望に応じた理美容や毛染めの支援も実施		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	日常的に行っている。 外食レクも実施している	法人が決めた献立をもとに食材を業者に発注しています。盛り付けや食器拭き等、利用者が出来る事を一緒にしています。又、月に1回は外食や喫茶店に出かけたり、お祝いの日や定食の日を設定し、デパートの総菜を購入したり弁当の出前を取る等、食事が楽しくなるように工夫しています。又、職員も同じテーブルに着き同じ物を頂いています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスが考慮されたそよ風のメニューに従って調理している。水分量にも気を配っている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを実施している。又週1回の歯科往診時にも歯科衛生士による口腔ケアの実施毎日口腔体操の実施		

京都壬生ケアセンター そよ風（グループホームたんぼぼ）

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	随時、定時の排泄の声かけ、排泄介助を行っている	排泄や水分摂取量が記入されたイン・アウトチェック表を利用して、職員で話し合い分析し、個々に合わせた声かけや誘導をしてトイレでの排泄が出来るように取り組んでいます。失敗も少なくなり、パットや紙パンツが不要になり、布パンツで過ごせるようになった利用者もいます。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分量の確保、牛乳、ヨーグルトなどの食品や便秘薬の併用等で対応している		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	夜間の入浴は出来ていないが、本人の思いを尊重しながら昼間に実施	毎日入浴の準備を行い、2日に1回は入浴が出来るようにしています。希望があれば毎日の入浴も可能で、柚子湯や菖蒲湯、入浴剤を入れてゆっくりよ入れるようにしています。又、拒否傾向の利用者には、利用者の状態も考慮しながら無理強いせず、職員が誘導や声かけを工夫して入ってもらっています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間安眠への支援、状況に応じた昼寝も自由にさせていただいてる		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	お薬説明を共有して服薬は2重チェックで誤薬防止と副作用出現への対応も行っている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	気分転換も含めてその方に合わせた支援を行っている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	気候、ご本人の体調に配慮しながら、近隣への散歩や外気浴に実施	徐々に歩行や移動に支援が必要となってきた現在では皆で出かける事は難しくなりましたが、法人の建物周囲を歩いたり、玄関のベンチで外気浴をしています。月に1回は個別でドライブに出かけたり、家族の協力も得ながら自宅に戻ったり、孫と外出出来るように支援しています。今後、地域のふれあいサロンに出かけたいと考えられています。	

京都壬生ケアセンター そよ風（グループホームたんぼぼ）

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	職員と一緒に近隣へ買い物に出かけている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	実施している		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	日々の清掃、季節に合った飾りつけなど居心地よく過ごしていただけるよう努めている	掃除が行き届き清潔感があり、光や音に刺激がないように注意しています。リビングや廊下にはソファを置き一人でもゆっくりと寛げるようにしています。皆が見える所に手作りカレンダーを掲げ、日にちが解るように工夫しています。又、ユニットには自由に行き来が出来、ユニット間にはソファを置いて寛げるようにしています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビング、居室にて落ち着いてゆったり過ごしていただけるよう雰囲気配慮している		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	相談しながら進めている	居室前には利用者自身が毛筆で名前を書いてもらって表札にしたり、ぬいぐるみや塗り絵を飾り自分の居室が解るようにしています。クローゼットや机、椅子をホームから準備して、ベッドや小物入れ、テレビ、鏡、大切にしていたメダル、家族の写真等家族と相談しながら持ち込んでもらい、居心地のいい居室作りをしています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	身の回りのことやできる事は自分の力でやっていけるように支援している		